

会 議 録	
会 議 名	平成30年度 山陽小野田市男女共同参画審議会（第2回）
開催日時	平成30年11月28日（水） 14時～16時
開催場所	山陽小野田市役所3階第一会議室
出席者	池田 容子、棟久 佳子、栞原 奈苗、山本シゲ子、大田 雄基、篠原 明子、有田 光枝、大本 章男、末山 泰彦 委員数 12名 出席者数 9名
欠席者	野口 嘉一、岡部 つや子、松原 秀樹、
事務局等	市民生活部長 城戸 信之、市民部次長兼市民生活課長 藤山 雅之、市民生活課長補佐 山本 満康、市民生活課長補佐亀崎 芳江 市民生活課主任 岡野 文恵
会議次第	1 開会 2 自己紹介 3 議題 （1）「第3次さんようおのだ男女共同参画プラン（案）」について （2）「女性の日」について 4 閉会
会議内容	1 開会 2 自己紹介 委員、事務局が自己紹介した。 3 議題 （1）「第3次さんようおのだ男女共同参画プラン（案）」について 委員から提出された意見調査票に基づいて事務局より回答した。 意見の意図が不明な部分は委員より補足説明してもらい、後日回答を作成し、文書審議してもらったこととした。 委員：NO18について今後も啓発していきたいとの回答。具体的にどのような啓発方法か。 事務局：商工労働課が中心となって展開している、女性の就業の支援や、県の認証事業者の推進等、市だけではなく、県も通じて企業へ一層啓発していきたいという意味。 委員：市だけでできないが、市もしなければいけない。もちろん国も県も市も。そうするとどのような具体的な啓発をしていくかと思う。例えば商工会議所など集まりの時に共同参画の課から出向いて行って、そういう啓発、こういうことをしているんだとPRしていかなければ。ただ啓発と文章を書いても読む人はほとんどいない。機会がある度に出向いて行って、

言葉で話していかなければ人の記憶には残らない。どのような啓発をしていくのか踏み込んでやっていかなければ題目で終わるような気がする。

委員：女性が介護を負担するという話で、女性が退職して介護をするというだけではない気がする。まず経済的な問題が出てくる。現状をいうと女性より男性の方が収入が多い。そうすると男性が介護をすると経済的なダメージが大きくなる。一概に女性は介護、男性は外で働くというような意識だけではないような気がする。この話は非常に難しい。女性の職場進出、女性の職場での地位向上のテーマが色々出ているが、女性の意識の問題もあると思う。「あなた課長お願いします」と言って、家事が忙しく、早く帰らないといけないという事で辞退される方もいるのではないかと。男と女の比率を比べると、例えばふるさと、各校区の校区長、女性の方がいない。女性の方がもっともって出てきてくれるといいのだが、なかなかいただけないのが現状。女性だけの会であれば女性が会長をされるが、どの校区でも副会長はいいけれど、会長にはなれませんか、というような意識の方も多し。たぶん職場でもそういう傾向にあるのではないかしらと思うし、女性の意識によっては別に女性だからこうとか、課長になれない等はあまりないのではないかしらと思う。こういう問題は、早急に変わる問題じゃないから時間をかけてしなければ。

委員：NO5 地域と学校が連携した活動を活発化するというのは、公民館活動と学校の発表会を一緒にするようにもっていったら子どもも地域がよく分かるし、学校の親もだんだん地域にも馴染んでいけると思う。そういう風に繋げるものをもっていてももらいたい。

委員：今、社会教育課で全市コミュニティスクールを進めているはず。ただ学校によって取組の格差はあるが、頑張られて良いコミュニティスクールになっている。山口県はコミュニティスクールの実施率は100%で、これは全国で唯一。他の県はここまで進んでなくて、山口県は先進的な県になっている。

(2) 「女性の日」について

意見調査票結果を基に、意見を出し合った。

委員：女性の日があると知っていたか。少人数だが、町内の人に聞いたが、数人は「知らない」で、数人は「聞いたことがある」と答えた。「いつあるのか」と聞いて10月1日と返事をしてくれた方はいなかったという現状。これをずっと続けていくという事か。

事務局：男女共同参画について考える機会をチラシだけではなく、講演会など現状のイベントとしては残したいと考えている。

委員：どうして1日で終わるのか。例えば男女週間でもいいのではないかしら。

委員：父の日とか母の日とかは一日だけだが。

委員：それは一日でいい。これはお互いを思う事だから、一日より一週間の

方が良い。

事務局：一日だけにするのか、週間ですのかについては今後検討していきたい。もし女性の日のネーミングを変えるのであれば全般的に変える、違った方向で取り組むという方法もあると思う。その一つとして一週間設けるという意見として受け賜りたい。市としては女性の日を、目的とネーミングについて今の時代にふさわしいのか、引き続き同じ名称同じ目的で行っていくべきなのかについて施策の大切なことなので意見を聞きたい。

～続けるか続けないか、二択で聞く。～「続ける」が7名。2名が「反対」。
事務局：2名の反対の意見を聞きたい。

委員：女性の日の設定は逆に女性差別に繋がるのではないかと。女性週間や女性、男性というよりは他の名称でやった方が良さそうな気がする。

委員：時代にそぐわないからと思ったし、女性に特化しなくてもよいと思う。もし感謝するならみんなにしたらいいと思うし、もし廃止という選択肢があったのなら、廃止と考える。

事務局：廃止してイベント自体もない方が良さということか。

委員：イベントは良い。色んな事を通じて何かを行うことは、何かに繋がると思うので、そういった活動はとても良い。女性にだけの目的はいかかかと思う。男女問わず、一緒に幸せを分かちあいたいという風に。

事務局：女性だけではなくてという事であれば目的は変更すべきであると理解した。

～再度、この日を設け続ける事に関して賛成反対を聞く。～反対が8名。賛成が1名。

事務局：男女共同参画を謳ったイベントが必要かどうか。

委員：山陽小野田市には女と男の一行詩がある。男女共同参画って言ったら堅いから「女と男（ひととひと）の日」というような感じの日がいいと思う。裏方という言葉は使わない形で。

事務局：目的を変えて女性の日をやったらいいのか。

委員：それよりはこういう特別な日を作る必要が有るか無いかの話ではないか。目的はどうであれ。

事務局：目的が今の時代にふさわしいのかということは気になる。

委員：賛成・反対意見はここに書いてあるそのままではないか。

事務局：全体の意見を聞いて、意見が変わったりすることはあるかと。もし目的を変えたならばネーミングは変えた方がよいか。

委員：目的による。

委員：内容とタイトルは一致しないと整合性がなく、受け入れられないものだと思う。そもそも目的がないと始まらない。

委員：逆に極端な意見を言えば、男女共同参画を絡めていくのであれば、別に女性の日でなくてもスマイルシティに似合うような、市民が明るくみんな笑顔で生活できる安心安全な町づくりの為を目的としている訳だから

ら、それを考える会でもいいし、家庭を考える会でもいいし、地域を考える会でもいいのではないか。

事務局：目的をこうしたいっていうのを出さないと収集がつかない。女性だけがというのはいかななものかというのは共通認識。

委員：今後文書審議をするところがあったが、それと併せて目的をはっきりさせた上で再度アンケートを取られたらいかがか。